

# 叙述の仕方の確認 通過率 35.9%

解答類型	割合 (%)
○ 条件1, 条件2を満たしている。 (例) 一文め 言葉の意味のとらえ方は、時代とともに変わっていく。 二文め 私は、相手がどのような意味で言葉を使っているかを考えながら、コミュニケーションを図っていききたい。	22.3
○ 二文めに「だから」「したがって」などの接続詞を補っており、意味が通じるもの。	13.6
× 条件1を満たしているが、条件2を満たしていない。	39.3
× 条件1を満たしていないが、条件2を満たしている。	1.3
× 上記以外の解答	11.0
— 無解答	12.4

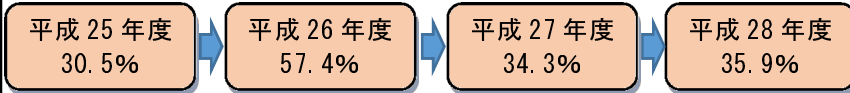
条件1 意味は変えずに二つの文にすること。  
条件2 二文めには「図っていききたい」に対する主語を補うこと。

3 山本さんは、「……」の言葉の意味のとらえ方は、時代とともに変わっていくので、相手がどのような意味で言葉を使っているかを考えながら、コミュニケーションを図っていききたい。には二つの内容がふくまれていることに気がつき、書き直すことにしました。次の条件1と条件2にしたがって書きかえなさい。

言葉の意味のとらえ方は、時代とともに変わっていくので、相手がどのような意味で言葉を使っているかを考えながら、コミュニケーションを図っていききたい。

山本さんは、「構成メモ」の6 まとめをもとに、「……」の文を書きました。あとの問いに答えなさい。

## 叙述の仕方の確認 通過率経年変化



依然として課題です。

誤答を見ると、二文めの主語である「私は」を補うことができていない生徒が39.3%と一番多い。主語が省略された連続する文の中で、動作等の主体となる「主語」が何であるかを判断しながら読むことに課題があると考えられる。

## 内容の系統

思い出させましょう。

第1・2学年 伝国イ(カ)  
・主語・述語の関係

第3・4学年 伝国イ(キ)(ク)  
・修飾と被修飾との関係、文の構成  
・指示語や接続語の役割

第5・6学年 伝国イ(オ)(カ)(キ)  
・語句と語句との関係  
・語感、言葉の使い方に対する感覚  
・文や文章の構成

中学校第1学年 書くこと  
エ 書いた文章を読み返し、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、読みやすく分かりやすい文章にすること。

伝国…伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

## 提案

普段の授業でも、主語と述語の関係を意識させる取組を行いましょ。

- 改善に向けた指導については、平成26年度及び平成27年度の学力調査報告書に示しているように、主語と述語の関係を意識する必然性のある言語活動を仕組んで指導するようにしましょう。また、その指導が、一過性の指導にならないよう、普段の授業で生徒に文章を書かせたり読ませたりする際には、「この動作の主体は誰?」「この文章に主語を補うとするとどうなる?」と意識的に問いかけ、確認させることが大切です。継続的な課題であることを踏まえ、改善に向けた取組を行っていきましょう。